

大河原町まち・ひと・しごと創生会議「第1回会議」 会議録

日時：7月20日（火）13時30分～15時30分

場所：大河原町役場2階 第1会議室

1. 開会（進行：企画財政課 政策企画係長）

2. 委嘱状交付

3. 開会のあいさつ（大河原町長）

みなさんこんにちは。大変な暑さ今日で4日目でしょうか。この暑い日が続いていくだろうなと覚悟したところでございます。さらにコロナ禍、大変厳しい環境がたくさん出ているところでございます。さらにまもなくオリンピックが始まるという状況で4連休も待っているわけでございますがなかなか思いが揃わないという状況があるのかなという不安を抱きつつあるところでございます。その中御出席をいただきましたこと御礼申し上げます。そしてまた、日頃今日お集まりの皆様にはそれぞれの立場で町政全般に渡り大変暖かいご理解とご協力をいただいておりますことこの場をお借りして重ねて御礼を申し上げます。地方創生数えてもう7年目を迎えているところでございます。この間地方においては残念ながら人口減少には歯止めはかからず、各市町村が持つ特徴を生かすというのが目玉の目標であったわけですが、それぞれの持っている特徴を生かすにもその予算が単独ではなかなか守り切れない厳しい環境が見え隠れしていると感じているところでございます。なおかつ、大きな期待を持っております広域連携、残念ながらコロナ禍の影響もありまして、とりわけ経済面での効果がなかなか上がっていないというのが実情であろうと思うところでございます。そして全くの私見ですが、みんなで取り組んでいこうとすることに残念ながら自治体間の温度差が非常に大きくなっていて、これが連携を深めていくことに壁を落とす結果になっていないだろうかというふうに受け止めているところでございます。地方創生にまた期待は持てないみたいな話になってしまいましたけれども、決してそうではなくて否定しているものでもございませんし、またすべて悲観的に受け止めているということでもございません。ただ、地方にとって地方創生は大変大きな課題であると同時に困難を抱える問題であるとも感じているところでございます。

令和元年度までが第1期の5年間でしたけれども国の示す地方創生の3本の矢があったのを皆さんも御存知かと思えます。情報・人材・財政の支援を活用して本町におきましても子育て世帯の転入による人口の維持、あるいは賑わいの商業集積、恵まれた医療環境を持っていますので、その規模を高めていく努力、あるいは学力向上ということを中心とした教育のブランド化、さらには地方創生関連の資金を使わせていただいた中央公民館のリニューアル等も実施してきたところでございます。令和2年度～6年度は第2期ということになり

ますけれども、もうご存じのように前半はコロナ渦への対応、そして社会経済環境の大きな変化に対応していく状況の真ただ中にありまして、そういう中ではありますが、本町の現状を示す指標等については後ほど若干触れさせていただきますが、おおむね県内において高い関心が寄せられる程度の状況になっているのではないかと受け止めているところでございます。また、長年の行政課題となっていたハード事業がいくつも積み重なっておりました。給食センターから始まりまして桜保育所、今着工中の大中体育館の改築、こういうことも一連の子育て、あるいは教育環境の整備ということで進めてきたところでございます。さらに、県とのコラボ事業であり、知事の提案事業という位置づけもいただいて白石川右岸河川敷等整備事業の推進を現在図っているところでございます。スポーツあるいは健康づくりといったことも含めたレクリエーション軸という言葉がいいのかなと今考えておりますけれども、広域的な新たな賑わいの拠点の創出を目指してまいりたいと考えているところでございます。これにつきましては地方創生関連の交付金活用も検討しながら広域的に見た本町の果たすべき役割をしっかりと担ってまいりたいと考えてございます。

現在の地方創生を視点とした本町の現状でございますけれども昨年の10月国勢調査を行いました。5年間で0.9%減りましたが、その後この半年ほどで40人ほど人口増えておりまして住宅着工件数の伸びが人口の維持を助けてきた状況でしたが、コロナ禍で相当厳しい結果になりまして前回の国勢調査までの5年間の後半1年間は相当人口が伸びない厳しい環境になりました。しかしまた最近、材木調達が厳しいなど環境が整わないところもありますけれども、水道メーターの報告を私毎月確認しているのですが、水道メーターの設置がどんどん伸びてきておりまして、それに合わせて人口が増えているこの傾向が続いてくれればいいと考えているところです。若い世代のかたが移り住んできますので生まれる子どもの数が減って人口が自然減となっておりますけれども、子どもが移り住んでくるので全体的な子どもの数については大きく減ってはいない。さらに税収に直結しますが、働き手の数が減っていないというのが非常に我が町にとってはありがたいことになっているところでございます。また、高齢者の健康意識に関する指標あるいは介護関連、健康づくり等からみた指数もこれまでと変わらない状況が続いておりまして、県内においては健康意識の県内トップに位置づけられる町、そして元気で長生きな町ということに繋がっている良好な結果となっているところでございます。さらに子どもの学力向上、さらには結婚・出産・子育て等の支援の結果が示す指標についても県内では高い水準を維持しているところでございます。離婚率が高いというのも数字を見つけたところでございました。そして皆様関心おありだと思いますが、重要業績評価指標（KPI）ですが、税の総額の確保に貢献する特質的状况がうちの町に表れています。昨今非常に関心の高いふるさと寄付金、ふるさと納税でございますが、その額が4月からの3か月、6月末までの間に前年の200倍～300倍くらいのすごい増え方になっておりまして、3か月で1億2700万ほどまで伸びております。返礼品にアイリスオーヤマ社の製品が加わった賜物でございますが、しかしこの数字が飛躍的に伸びるという状況が生まれるのではないかとひそかに期待をしているところ

でございます。

そして今年度、国の示す基本方針の考え方というのが示されておりまして、まず1つ目がヒューマン、地方への人の流れの創出と関係人口というのがございます。2つ目、デジタル。これは地方創生に資するデジタルトランスフォーメーションの推進ということです。3つ目グリーン。地方がけん引する脱炭素社会の実現ということが掲げられています。そしてコロナ禍でこれも私の実感ですけれども、コロナ禍で懸念されることの中に深刻でなおかつ見えにくい社会的な弱者への対応というのがあるのではないかと考えております。社会的包摂の推進あるいはSDGsの掲げる誰一人取り残さないといったことなどにも繋がる地域共生型社会の実現がキーワードになるのではないかなと考えているところです。今なお続くコロナ禍であります、人と人、地域と地域の関わりや確実に進むデジタル化とともに、人の生活様式にも大きな影響を与えることとなってまいりました。今後の地方創生の視点においては外部から地域に参画する関係人口あるいは繋がり人口とも言われるようではありますが、そういったかたとの連携・共同による地域づくりということにスポットが当たってくるのではないかと考えているところでございます。冒頭ちょっと固い話となりましたが、この会議なかなか私出させていただいていなかったんですね。そのことに気づいて、ちょっとまとめてお話をさせていただきました。長くなりましたことお許し願います。どうぞよろしく願います。今日は時間ができましたので、このままここに座らせていただきます。

4. 委員並びに事務局紹介

5. 議事

～会長あいさつ～

こんにちは。大河原町商工会会長を仰せ預かっておりまして、この会議の会長もということでございます。櫻井でございます。どうぞよろしく願いいたします。委員の皆様、熱い中ご参集いただきまして誠にありがとうございます。第2期のまち・ひと・しごと創生総合戦略の施策による創生会議が昨年5月に行われましたので、それから計算しますと1年2か月ぶりの創生会議の開催ということになりました。この間、新型コロナウイルス感染症の拡大により生活も仕事も様変わりし、ワクチン接種が進んでいるとはいえ、収束には時間がかかるようでございます。令和2年度はコロナ禍の影響が多方面に及んだところでございますが、本創生会議において、その中で町の地方創生事業がどのように進んでいるか、令和2年度の進捗を確認する役目がございますので今回お集まりいただいた次第でございます。また、この総合戦略についてはコロナが出る前の施策をまとめたものでありますので、コロナ対策や社会環境の変化を入れずに審議するのも現状に合わない計画となりますので、今回委員の皆様へ送った通知内容にはございませんでしたが、コロナ関連の動きも入れて総合戦略の改訂をこの場で協議を進めたいと思い、今回次第に入れさせていただきました。町事務局の説明を聞いていただきまして現状に合った総合戦略の改訂版になりますようにご協力のほどお願いしたいと思っております。とはいえ、まだコロナ禍でありますので、短

い時間にしたいと思います。目標としましては3時くらいまでで終了したいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

(1) 第2期大河原町まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策における令和2年度実施内容及び令和3年度実施予定について

→資料を基に企画財政課長より説明

【資料】大河原町まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策における令和2年度実施内容及び令和3年度実施予定について（進捗管理シート）

<質疑応答>（レコーダー1時間6分～）

発言	内容
櫻井俊寛会長	令和2年度の施策に関しましては、コロナ禍でもあり推進できなかった事業、また、感染症対応の事業により計画通りでないもの、その中でも計画にある事業が推進できたものもありました。また、3年度の予定も説明いただきました。これらの説明を受けまして、ご質問・ご意見ございますでしょうか。
安藤俊和委員	<p>防災の関係ですが、台風19号で私の住んでいる東桜町も浸水したところがありまして、先日NHKの朝のニュースでやってたんですが、下水のマンホールの下に水位センサーを取り付けることによって、水位が上がってきたものを早めに確認できるというのがありました。町の中で一番水害が先に出てくるものって町で把握していると思います。そういうところに重点的に2、3か所つけるだけで町の初動体制や住民への周知っていうのは早くなってくるんじゃないかなと思いますのでその辺を参考にさせていただいて情報収集なりをしていただきたいと思います。</p> <p>もう1点は、防災士の資格を昨年募集されて、私も応募して取ったんですが、町の防災士の組織はあるのでしょうか。あるのであれば町全体として防災士の横の繋がりを取っていただいて、いろんな防災の認識の共有化を図っていただければ、今後町のいろんな防災についての案が出てくるんじゃないかなと思ってますのでお願いしたいと思います。</p>
企画財政課長	<p>冠水が進む部分につきまして要所要所で確認させていただいてるところでございますが、先ほどの水位センサーにつきましては担当者に情報を流していきたいと思っております。</p> <p>防災士の組織体制の連携につきましては、防災士がどんどん増えていけばどのような体制をとった方がよろしいかということで出てくるか</p>

	<p>と思いますので、こちらについてもご意見が出ていることを伝えさせていただきます。</p>
齋町長	<p>追加でいいですか。今、町で取り組んでいる中身と県・国への要望していることがございまして、700万ちょっとであり予算は多くないんですが、東桜町にはポンプを設置いたしました。しかし台風19号程度の雨量になりますとなかなか対応が困難かと思えます。内水ですが、前は荒川からの影響で生まれておりまして、荒川の川環境を改善するために様々な要望を村田町と一緒に国にあげております。町民の皆さんにとっては非常に関心の高いものでございまして、町として現状即座にすべて改善することは難しいですけれども、できることはやる、求めていくことは求めていくということで対応してまいりたいと考えておりますので改めて報告をさせていただければと思います。</p>
安藤俊和委員	<p>その件でもう一ついいですか。今、町長の方から話ありました荒川なんですけれどもだいぶ川の底が浅くなりまして、あと両側の草が生い茂ったり土手が崩れたりしているんで、あの状態を解消しないとやはり水をどこかにやるというだけじゃなくて、どこかに留め置くまたは溜める機能というのを保全していかないと今後の雨に対する対策というのはたぶん難しいと思えますので、国または県の方に要望していただければと思います。</p>
齋町長	<p>川幅が相当狭くなってきていて、まき橋(村田から大河原に入ってくる橋)が、水の流れに相当影響を与えているということで国に直接相談したことがありました。改善のためには20数億かかるという試算がある旨お話ありまして、ご指摘のとおりで私もそう感じておりますのでご理解のほどよろしく願いいたします。</p>
晋山孝善委員	<p>私が思っている防災について、地震とかはどうしようもないですけど今言った水害とかは、気象の今の環境でわかるのでセンサーの常設はなかなか厳しいと思っているんですよ。危機の保守点検とか電源のネットワークとか。ところが台風が来ると何時前から気象がわかっているときに前もってセットでセンサー類を持っておくとそこに設置していくつくらいか見て、水位が上がってきたときに避難体制を出すとか。国とか県とかが持っているものはあるんですけど、内水が起こるときって町の用水だったり、もっと狭いところが一気に増えるケースが多いっていうので、たぶん県とか国とかの予算ではないところにあると思うので、そこは単独でやれるようになおかつできるだけコストを下げてやるには、常設ではなくて、前もって設備を用意しておいて局所局所にセンサーを張ることが一番コストがかからないと思うので、そうい</p>

	うことも検討されてはどうかと思います。
櫻井俊寛会長	他にご質問等ございませんか。
本木仁委員	今の台風のことに絡んでなんですが、今避難場所が川西地区だと小学校の1か所ですよ？こちらの界限では。
企画財政課長	中学校体育館もあります。
本木仁委員	<p>実際のあの時の状況を見ると白石川がまもなく氾濫するという状況の中で、私フォルテの界限に住んでいるんですけど、あそこから川の方に向かってきてそこで避難するというのはあの辺の地形は非常に狭い。あの体育館だけでこの辺の住民を全部賄えるのかどうか。総合体育館は避難場所にはなっていないとのことですが、将来的に考えると、そこも避難できる場所として整備していただくのも一つの考えなのかなと思います。駐車場もありますので、避難場所を増やしていただくというのも一つなんじゃないかなという私の考えです。</p> <p>あと別件ですが、4ページの担い手育成事業ですが、令和3年度は認定農業者を育成していくところで具体的に件数はいくつあるのか。認定新規就農者を志向する農業者への計画策定支援ということで希望しているところが実際にあるのかどうか。</p> <p>住民活動支援事業の令和3年度の中で、3団体を予定しているということですけど、募集の案内はおしらせばんに載ってるということによろしいですか？（課長：おしらせばんと広報にもあげさせていただきます。）</p> <p>あとふるさと納税に関して平成6年度は1億円の数字が入ってますが、これは寄付総額ということによろしいですか？ふるさと納税の場合、返礼品とかサイトへの手数料とかが引かれて自治体に入る金額となっていたり、約半分くらいの額と伺っているのでこれは純粋に町に入る収入なのか総額なのか知りたいなと思います。合わせて寄付のサイトはどこでアップしてあるのかお伺いしたいと思います。</p>
齋町長	<p>最初とふるさと納税は私の方から。公共施設を避難所に行っているわけですけど、実際にそれだけで十分充足されているわけではあるいは安全安心に繋がっているという状況ではないことにつきましては当然認識を持っているところでございまして、今日ヒルズの佐藤社長いらっしゃるんですけど、民間と協定を結んで階高のビルや高いところの駐車場などを活用させていただき協定を今後も増やし続けていくつもりでいます。今5つの企業の皆さんと協定を結んでおりますけれどもこれを増やして、どうしても高い建物がないという地区もあります。そういった課題もありますけれども前向きに対応してまいりたい</p>

	<p>と考えております。民間の皆さんの力をお借りできればありがたいなと思います。ふるさと納税につきましては1億円の寄付金があると実際に町に残るのは半分程度くらいのお金、つまり5千万円が町で使えるお金として残る状況になっています。サイトはいくつもありますけれどもそれについては事務局から説明してください。</p>
企画財政課長	<p>ふるさと納税の回答を続けさせていただきますと3割が返礼品、2割が中間業者の手数料になっています。ふるさとナビ、楽天とか6か所くらいインターネットに大河原町ふるさと納税ということで載せさせていただいております。一番多いのは楽天で、大河原町の収入源としては一番多く活用させていただいております。担い手育成に関しましては、私の方で確認しているのはまだ1件程度ですが、いちご農家として若い人が働きたいということで農政課で支援をしております。まちづくりの活動支援事業につきましては7月号から広報に上げさせていただきます。5か月間くらい募集をさせていただく予定でございます。例年ですと10万円×3件という予算を取っているんですが、昨年も2件、委員の押野委員にも申込みいただいて事業について活用させていただいてるところでございます。今年は3件埋めれるような形でまちづくりで賑わいが増えて、団体として活発な活動をしていただければということなので3件考えているところでございます。</p>
永沢恵美子委員	<p>7ページの待機児童数の令和2年度の実績と目標が令和6年度ということなんですけれども、令和2年が13人で目標が0って6年までかかったらだいぶお子さんは成長してしまうというかこれから人口増加は難しいみたいなことをおっしゃってましたけど、この0がなぜ来年にというか、すぐに0にならないのか。</p>
企画財政課長	<p>4月1日時点では0人になっております。令和6年度においても0人を継続していく意味合いでそこを0人にしています。</p>
晋山孝善委員	<p>ふるさと納税で、せっかくこれだけ売上が上がってるんでしたらアイリスオーヤマさんでプレートをついたらヒルズの肉とかセットにすることで、アイリスの商品に地場産品をくっつけることでかなり地元の会社さんにとっては大きな売上に結びついていくのではないかと思います。作るの大変とは思いますが、観光物産協会が一般社団法人になったということなので観光物産協会で一回仕入れてセットにして売みたいな仕組みができると非常に町の事業者が潤うじゃないかなと思います。</p>
齋町長	<p>当然考えているところございまして、ふるさと納税の取り組みは年間ひどいと500万円に満たないくらいの年を続けてきたんですけれ</p>

	<p>ども、角田市が非常に数字を伸ばしてきた時に、私も積極的に教えを乞う状況を作りまして2年がかりでアイリスオーヤマ、ヒルズさん、菓匠三全も乗っかろうとしているところがございますけれども、組み合わせでなんとかうまくできないかということも並行して考えてきているところです。地場品を盛り上げていくという視点もふるさと納税にあっていると思いますので返礼品を通してそのへんを工夫してまいりたいと思います。ふるさと納税に関して目標は1億円になっていますが、12月がほかの1年のうちの11か月と同じくらいの額になるんですね。このままいくと8億、10億いく可能性も十分あると思っています。すごい伸びになるわけですが、去年4～6月で確か70万もいってなかったのが1億2700万ですので飛躍的に伸びているわけですが、この状況が続いてなおかつその累積額に等しい額が12月で積みあがる、つまり数字が倍になると相当ですが、ただ確約されているものではないので来年度再来年度でどうなるかわからないところでございますけれども、角田も柴田もシティプロモーションになっていますので、私も最初負担しなくていいかなと思っておりましたが、大切な視点だなということで進めてきたところでございます。政策として頑張っていくつもりでございます。</p>
--	--

(2) 第2期大河原町まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂案について

→資料を基に企画財政課長より説明

【資料】第2期大河原町まち・ひと・しごと創生総合戦略 第2版

<質疑応答>

発言	内容
櫻井俊寛会長	<p>国のまち・ひと・しごと創生基本方針2021の考え方を受け、コロナ禍を踏まえた総合戦略の改訂案の内容でございましたが、コロナ対策を継続・対応する記載、コロナ禍の新たな生活に対応する行政のデジタル化、移住定住への情報発信を進めることの記載について、また別の視点でも構いませんので皆様からの質問・ご意見をいただきたいと思ます。</p>
安藤俊和委員	<p>14ページの数値目標及び重要な業績評価指標のKPIなんですけれども、マイナンバー交付率で、国の方で100%を目指すというのは国の方針なんですけれども、町として活用をどのように考えるかというのが大切になってくるんじゃないかなと思います。国に追随して施策を進めるというのも一つなんでしょうけれども、町としてどういうふうに使え</p>

	<p>るかという目標がある程度必要なんじゃないかと考えています。あと16ページなんですけども、この課題に対する具体的な施策で一目千本桜シティプロモーションというのがあります。この町としては桜が一番大きい観光の目玉になるのかなと思います。期間が1年のうちだいたい2週間～20日という感じになるんですね。今は先祖の植えた桜によって全国的な観光地になっていますけども、今後これをどのように、かなり老木感が出て、毎年たぶん枯れている樹木もかなりあると思うんですね。そのへんの確認をされているのか、また新たに堤防に植栽ってできないようになってきていると思うんです。その場合に減少するだけであってほかのことを考えていかないと、あれが枯れた時には単なる堤防になってしまわないか。なにかほかに観光の芽を今のうちに種をまいていくことによって将来そういうものを作っていくというのが高山さんがやったことの一つに思います。どのようにお考えですか？</p>
齋町長	<p>最初のマイナンバーカードに関わる件ですが、あくまで町がこれを独自に活用するという事はなかなか困難だろうと思います。国策でこれからさらに様々な付加要素が生まれてきます。例えばワクチンパスポート。2回打つと今月の26日から紙ベースの申請ができるようになります。最終的にはスマホで簡単に確認できるような状況にしていく。その時にはマイナンバーと連結するという話が聞こえてきております。保険証はもう国策で代用がきくように、ただすべての病院ではないので限定されますけれどもこれから順次広まっていくのではないかと思います。町独自にマイナンバーカードを利用した施策を立てるとするのは現状なかなか困難だというふうにお答えさせていただきます。それから桜ですけれども、29年度と30年度に両岸の剪定作業をしております。ご指摘あったように根こそぎ倒れたり真っ二つに割れたりする状況が生まれてきてます。樹齢何年のものを植えたかわからないんですが、100年超えたくらいに実はなっていて、ソメイヨシノの平均寿命は85年～90年くらいのようなので大変厳しい環境に置かれています。しかし補植したものは当然あるわけですね。で、補植したものは太くなりきれない状況でいます。元々あるものが張り切っているので大きくなれない、それが枯れると少し成長するっていう話もあるんですけど、いずれ見た目は若干寂しくなる可能性はありますけれども補植されたものを活かしていく。それと白石川右岸河川敷に桜の木の植栽が進められております。今度町で様々に駐車場などいろいろ作ったり整備を進めていきます。その中で来年度樹木医資格を持つ</p>

	<p>た桜守を採用して1年間通じて桜を守っていく、そしてまた新たな桜の展開を進めていこうということでご本人の同意を得て、準備を今商工観光課中心に進めているところをごさいます、うちも樹木医をつけて診断して消毒やって、剪定も1本1本樹木医さんが立ち会って見てくれて剪定しておりますが、切ったあとの消毒とかいろいろご指導いただきながら進めておりますが、今度は常時町で働く人が桜を守る役割を担っていくと、そういうところを大事に、私は町民の皆さんにもっと桜を想うそういう気持ちを高めていけないかと日々いろんなことを考えているところをごさいます、またアイデアがありましたらぜひご指導・ご意見いただければ幸いです。これは決して失くせない我が町の財産だというふうに思います。ぜひご理解のほどよろしくお願いいたします。</p>
<p>櫻井俊寛会長</p>	<p>ほかにご質問等ございますでしょうか。</p>
<p>竹川貴子委員</p>	<p>マイナンバーの交付率が34.4%というのは決して高くないと思うんです。目標は100%とありますけども、町長が言ったように町独自でできることはほとんどないというか限られていると思うんです。ただ、なんでみんなが申請していないかというところをあまり感じてないからだと思うんです。結局免許証もっていれば事足りるので、そこにメリットを感じていない。私たちが生活しているうえで便利だなと思うのはやっぱりコンビニで公的証明をマイナンバーカードを使ってすぐ証明書を発行できるのであれば、仕事の時間とかにとられることなく、皆さんすぐ近くのコンビニで仙台市のように取れるというのであればそれだけでもパーセンテージは上がってくると思うんですね。あとこれはセキュリティ上大変だと思うんですけども本人じゃなきゃ受け取れないとか開庁時間のタイミングが合わないうちの主人なんかも持ってなくてもいいやとなるんですが、国の施策では令和6年度までの施策があるようなんです。町でももちろんコンビニ交付事業だとか進めていけるのであれば、少しでも町としてのメリットを準備をしていただければいいなというのが素直な気持ちです。</p>
<p>齋町長</p>	<p>町でも同様のことを考えておまして、今月の28日に政策企画会議を開催してそのテーマの一つが諸証明書のコンビニ交付の実施について進めるということのもちろん前提で議論したいと思っております、これが確かに町民の皆さんにとっては最大のメリットになるのかなと思っておりますので、これを交付事業を実施できるようにしながらパーセンテージを上げていくという形に、せめて5割を超えていかないと進まないと考えます。あまりにも進捗が緩やかなので、このへんは皆さん</p>

	<p>にご意見いただいたのでコンビニ交付を進めるということで頑張って議論させていただきたいと思います。</p>
<p>晋山孝善委員</p>	<p>これから DX されるときに私実は今ギガスクールでほかの自治体でサポーターっていうのを受けて2つの自治体で今やってるんですけど、そこで思っているのが教育委員会の標準仕様書、それに従って発注かけて受けてるベンダーのかたであんまりわかっている人がいない。それでうまく回るんだらうかというのがすごい不安になってるんですよ。で今、自治体さんの DX についても同様で、結局標準的な仕様があってそれが全部の自治体の規模とか地域によって丸々当てはまるかというとはまららないのと、今回文科省の仕様についても結局文科省内で作成してるんですけど、ICT 系の総務省とあんまりやってない感じなので今の実情に合わない仕様じゃないかとすごく思っているところなので、文科省に対していろいろ話をしているところですが、そういう意味では今後自治体の DX を進めていく中でも、たぶん自治体の中だけじゃなくて専門家のかたをアドバイザーとして入れる必要があって、偉い先生じゃなくてある程度実情をわかってる人のアドバイスってものすごく重要だと思います。今のマイナンバーカードについてもそうですけどこれから少子高齢化で免許返納します。若い人は今免許取らない。顔が載った証明書ってどんどん減ってるんですね。そういう意味ではマイナンバーカードに移行したいと国が思ってやっています。今後 DX を進めていく中での本人確認、はんこも今なしにするって言うのがたぶんこのマイナンバーカードに統合していこうと国は思っています。管理社会になるというので危惧されているかたもたくさんいらっしゃるんですけど、一般のかたの便利さは格段によくなるだろうと思いますし、それによっていろんな犯罪もおこるだろうと思っています。ただ私が思っているのがもっとこう普通に考えて、クレジットカードであれば車まで買えるくらいのクレジットカードあるんですけど、たぶんサインだけで買えちゃうんですね。それくらいの信用があるのがクレジットカードで、不正があったときの対策が揃っててできてる。今マイナンバーカードとか、この間の10万円給付もそうでしたけど、入口がガチガチであなた本人ですかなんてやりすぎたために全部使い勝手が悪いんですよ。クレジットカードなら買うときに、あなた本人ですかなんていちいちやってないじゃないですか。なので使い勝手をよくすることがマイナンバーカードの普及に貢献してなおかつ便利になることに繋がっていくと思うので、まずそういう方向でシステムを作っていかなきゃいけない。DX 進めていく中で今の業務をそのままデジタルに置</p>

	<p>き換えるとたぶん仕事増えるばかりなんです。紙とデジタルの照合しなきゃいけないっていうので、それを全部の仕事棚卸をして、まずデジタル化できるやつはデジタル化して、なにか起こるかもしれないというのは割り切って、起こったこと前提に起こったときのこと考えてシステムを作っていくことがすごく重要になってると私は思ってるので、そういう意味でぜひデジタル化進めたいと思っていますし、そうすることで前半にありましたけど地域の割増商品券もデジタル化にするべきだと思ってますし、それでポイントを付与しながら普及させていってお金を地域で回していくことをもっと考えていくべきだと思っているので、いかに便利に使っているかを考えていく時代に入ってきていると思うのでこの辺は前向きに、そして移住定住もそうですけど今までは仕事とセットじゃないとここに住めなかったんですけど今リモートで業務ができるっていうことで、住みだけこっちにおけるっていうのができる時代になったので、いろんなところで今移住定住が進んでいます。それも来るのは若いかなです。子育て世代なので人口はこれから増える可能性があるんで、それについても今非常にチャンスだと思っています。コロナで実は地方はチャンスじゃないかなと思っているのでそれについてもこの地域の一番の魅力は桜ではなく私は気候だと思っています。たぶん全国で最も住みやすい気候だと、夏も暑いんですけど他が37度とか言ってる中で仙南地域だけはいっても30ちょっとで止まってる。1日でゴルフしてサーフィンしてスキーできるのは全国でここだけです。気候が安定しているとアピールするのが私は移住定住のカギかなと思います。</p>
<p>齋町長</p>	<p>政策として決めていないことを答えとしてお伝えしないといけない状況になるので一人で喋ってるみたいで大変申し訳ないのですが、ギガスクールICT支援なんかも1年で100の力を注いで教員のスキルが上がったら2年目50みたいにしていくなですね。果たしてほんとうまくいくのかその指導する側も問題は当然あるわけですよ。そういったことで教育現場で格差が広がっていくことを非常に危惧しています。そうならないように先進地として大河原は進めてきた経緯もございますので、なお頑張っていきたいなと思っております。行政のデジタル化についても同じことが言えるわけでございまして、アドバイザーのような存在の確保をどうやって進めていくかっていうのは早めに手を打っておかなきゃいけないなと充分認識させていただきました。その他気候等に係る恵まれた環境については改めて職員ともあるいは町民の皆さんとも議論しながら具体的に絡めて施策を立てれるか</p>

	とか検討させてください。
企画財政課長	14ページの行政のデジタル化の推進の2行目にデジタル人材育成・確保を検討しながらと書かせていただいています。ここの総合戦略に掲げないと国の方に申し込めない部分があります。もしかすると外部から専門家をお呼びしなくてはいけない場合は総務省の方に申出しますとNTTとか日立とかNECとかそちらの方から派遣が可能になる場合があります。なのでこの計画にもしかしたらかかるかもしれないのでデジタル人材育成・確保と書かせていただいて、申し込む際に国の方に出せるようなことができればということで、ここの文章はそういう意味合いで書かせていただいているということも補足させていただきます。
晋山孝善委員	ギガスクールと一緒に全国ですから。なので大手さんはあんまりよくないと思います。
本木仁委員	町長が最初におっしゃっていた誰一人残さないというので、私は障がい者支援の事業に携わっている立場として、自立支援協議会という組織があると思うんですけども、仙南二市七町のエリアを一つのエリアとして、そこの担当は各市町村の健康福祉課の障害福祉担当のかたたちが自立支援協議会を主に参加されていると思うんですけど、宮城県の中で仙南二市七町の協議会のエリアがこれぐらい広いエリアで活動しているのはこの地域だけなんです。例えば岩沼あたりだと岩沼と亘理、山元町に関しては一町だけで自立支援協議会をやっている。その中で障がい者の対応の問題を話しするときどうしても広域的な視野に入れて検討しますという答えを結構いただくんですけども、広域的な部分で考えるその自立支援協議会の運営の中身がですね、開催の日時も少ないと聞いているし、コロナ禍で解決できる組織体制ができてののかなというのが非常に私としては疑問なんです。その中で各組長さんが自立支援協議会の顧問的な立場になっていると思うんですけども、私の一個人からすると自立支援協議会の枠組みを二市七町くらいの広さではなくて、3つくらいに分けた形で分割していただいてなおかつ福祉関係者とか関連する人たちの出席をさらに高めていただいて地域の問題を解決していただく組織づくりを進めていただきたいと思うんですけども、実はこの話は柴田町の当時の福祉担当のかたにも村田の福祉課長さんにも大河原の福祉課長さんにもお話してるんですけども、集まり自体が非常に少なく、そのうちに課長さん変わったりして結局は進んでいかないという、そういう課題を解決するための組織であってほしいはずなのにそういう機能を果た

	<p>していないのはこのせつかくの組織が室の持ち腐れになっているんじゃないかということで、ぜひ齋町長の立場で一石を投じていただければなということでお話をさせていただきました。</p>
齋町長	<p>確かに仙南二市七町で、自立支援にしる居場所づくりにしろ、もっと難しいのは医療が必要な重度障がい者のかたもいろんな都合があつて、長年要望を受けているにも関わらず、二市七町では協議できていないあるいは結論が出ないみたいに先送りしてきている印象が私の反省も踏まえて今強く感じているところでございます。誰一人取り残さない本当の意味をもう少し掘り下げて考える必要があるなという風に思ったところでございますので、重度の医療が必要なかたも居場所が、実は私のところに直接求めてこられることもあるのでそのへんを切り口に広く、こういう自立支援の協議会があるけれどもどう機能してるのかという話をさせていただければと思います。</p>
本木仁委員	<p>二市七町で考える問題と地域を狭めて解決していく問題ともう少しすみ分けしていただいた方がいいかなと思います。</p>
齋町長	<p>はい。ありがとうございます。</p>
押野知子委員	<p>町内の子どもたちの不登校の現状がわかれば教えていただきたいんですけども、金ヶ瀬小中学校のお子さんが目に付くというか気になっていまして、増加傾向にあると聞いていますし、アートのたからばこの方にも第三の居場所づくりということで、「うらにわあとリエ」さんの方で不登校の子どもたちだけではないんですけども、ワークショップを開いたりしてるんですが、なかなか町内の現状がわからないので。</p>
齋町長	<p>私資料持っています。不登校は心のケアハウスが機能して、一時期からだいぶ減ってきた報告を受け続けているんですね。県の予算がだいぶ削除になってしまつて、しかしどうしても必要な事業ということで町も頑張つて継続していくのですけれども。</p>
竹川貴子委員	<p>私ケアハウスに週に数回仕事に行っているんですけども、ケアハウスに通所している子は今1人とかです。ただ大河原小学校自体にケアハウスの分室がありますので、教室に入れなくても分室に専属の教員がついてそこに登校できる子はしているという形になっているのでケアハウスに毎日何人も通っているというわけではないです。その子もケアハウスばかりじゃなくて学校の方にも顔を出し始めておりますのでだいぶ進んではきています。ただ、年度の始めというのは皆さん頑張つて学校の方に向けて行つてるんですけども、やっぱり夏休み明けとか年度の後半になってくると友達とのトラブルだとかで疲れてしまつて後半からケアハウスの方に出てくることもありますので、</p>

	その年度によっては違いますけれども今のところは毎日何十人もそこに行っているということではないです。
齋町長	不登校の児童生徒の推移わかりました。30日以内と90日以上で区分けされているようですけども結構な数ですね。令和2年度出現率町として4.21%。たぶん全国平均を超えていると思います。これが30日以上ですね。そのうちの90日以上ですかね。46%。だから結構不登校がいるということですね。ケアハウスについては4人だったり5人だったりですね。
竹川貴子委員	兄妹で不登校もありますね。上のお子さんが学校に行かないと下の子も行かなくてもいいんだとなってしまうと不登校に全部なってしまうとか、家庭環境も大きいのかなとすごく感じる場所ですね。
企画財政課長	今電話で聞いたところ5校合わせて20人ほどという返事でした。
晋山孝善委員	ギガスクールで一人一人に端末配って、リモートで授業できるように、不登校の子どもたちに対して学びを止めないという形での取り組みも行われようとしています。これからですよ。
竹川貴子委員	その端末が役に立ったというのは先日大河原小学校を伺ったときに、大河原小学校ではコロナで学校閉鎖になったときにタブレットに先生がミニ授業を録画してそれを各家庭に全部配った。授業を止めないように乗り切ったと校長先生はおっしゃって、やっぱり今後ギガスクール構想のメリットはそういうところなんだろうなと、今インターネット環境を各家庭で調査して、家庭でもWi-Fi環境が整っているか調査して町の方で今動いてくださっているんですけども、家庭によってはまだインターネット環境が整っていないので全部オンラインでっていうのは難しいんですが、データとして渡して家庭で見て授業を進めるっていうのはできたようなのでそこはメリットが大きかったかなと思います。
笠松利信委員	私労働団体の代表ということだったんですけども、テレワークがコロナですごく増えてきているのは私個人的にもいいことだなと思うんですけども、それをやることによって人とのコミュニケーションがなかなかできなくなっている。学習すること、情報を得ることは自分の家の机でできるのですごくいいですけども対話することがなくなったのでコミュニケーションをとることができなくなり、それが企業にとっても悪影響を及ぼすことがあるというのが我々の労働担当の中でも話されていることで、確かに格差是正を労働団体は謳っているんですけども私は元々団体的に言うと宮城交通のバスの運転手だったんです。高速バスの運転手でした。そこから労働団体の仙南の事務局という

	<p>ことでやらせていただいておりますけど、東京の方はすべてバスの中にコンピューターが入ってて信号機に近づくと全部青になる。センサーがあってバスが近づくと信号が青になるようにAIが動いています。すべてAIがやって人の手がいらなくなるのが、我々団体から見るとどうなのかなというのと人との接触がなくなるとコミュニケーション不足になり、そこは小さいうちから教育していかないと大人になったときにいかなものかなというのが今の考えです。</p>
櫻井俊寛会長	<p>去年に続き今回も2回目の会議でしたけれども、様々な委員のかたから貴重なご意見をいただきました。皆さんのご意見を検討いただきながら総合戦略の改訂を進めていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。最後に事務局の方からご説明していただきたいことがあって改訂版の策定の流れ、スケジュール等説明していただきたいというのと次に創生会議を設けた方がいいのかそのへんもちょっとお聞きしたいと思います。</p>
企画財政課長	<p>本日お配りした改訂版につきましてご意見をいただいた部分を調整させていただきたいと思っております。進捗管理でいただいたご意見も含めまして、次の役場内の庁議で図らせていただきまして、大きな変更がなければこのような形で改訂版を作らせていただきたいと思っております。もし大きな変更がございましたらご足労ですが、お呼びしますが、もしそういうことがない場合には、完成版を皆さんの方に配布させていただき、その後議会に説明し、町のホームページに上げさせていただくそのような流れで進めたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
櫻井俊寛会長	<p>次第にあります協議事項すべて終了いたしましたので進行につきましては事務局にお返ししたいと思います。</p>

(3) その他

→なし

6. 閉会